

2024年度（令和6年度）学校評価自己評価表

城東中学校区	校番 13	福山市立蔵王小学校
最終更新日		2025年（令和7年）2月17日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>中学校区で統一した育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）のもと、9年間を見据え児童・生徒の思考や単元の意義を協議し、子どもの学ぶ姿から授業を構成する。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>自分の考えをまとめ、他者と協働し、課題を解決しよとする力が育ちつつある。</p> <p>自己有用感、自己肯定感が低い児童・生徒において、学ぶ意欲の向上に課題がある。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>スキル</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を見つけ、解決の道筋を見いだす力 ○根拠をもって相手を説得する力 <p>倫理観</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自他を認め合い思いやる態度 ○自らの行動を律し、高まろうとする態度 <p>〈課題発見・解決力〉 〈論理的思考力・表現力〉 〈協働性〉 〈自己指導力〉</p> <p>目標を定める子 ねばり強く学ぶ子 自らを律し行動する子</p> <p>中学校区で目指す児童・生徒の姿（達成基準）を系統的に4つのステージで捉え、校区で統一した取組を進め、共通の指標で評価していく。</p> <p>自ら考え学ぶ授業改善の実現に向けて、校区全体で児童・生徒に育むスキルと倫理観を明確にする。系統的指導のあり方を協議の柱として、校区授業研究を活性化する。</p>
---	--	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>主体的な学びを通し、自立し、自己と郷土の豊かな将来を創造する生徒を育てる。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>課題発見・解決力</p> <p>論理的思考力・表現力</p> <p>協働性</p> <p>自己指導力</p>	<p>低学年</p> <p>中学年</p> <p>高学年</p>	<p>様々な活動に進んで挑戦し、責任を持ってやり遂げようとしている。</p> <p>自らの行動や学びが適切であるか振り返りながら、より良い生き方を考え創り上げようとしている。</p>
<p>学校教育目標</p> <p>豊かな心を持ちたくましく伸びる子</p>				
<p>現状</p> <p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自主的な活動に主体的に取り組むことによって、自己有用感が高まり、人を認め、受け入れる心情が育ってきている。 ○語彙力、言語活用などに課題があり、文章や情報を正確に読み取ることに課題が見られる。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○あたたかなつながりの中での学び合いをもとに考えを交流し、お互いの考えを認め合える授業ができています。 ○教材研究を深め、子どものより深い学びへと誘う授業づくりを行う必要がある。 ○より深い思考による学びから確かな学力につながるよう、ことばを大切にしたい授業づくりの実現が必要である。 				
<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>内容等</p>	<p>考えが深まるとともに自分の成長を実感できる学びの創造</p> <p>教材研究を通して教職員が学び合うことにより、子どもがより深く考え、「できるようになった」「わかるようになった」と実感できる学びを創造する。</p>	<p>めざす授業の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究を通して学び合うことで、より深い学びにつながる授業づくり ・子どもたちが立ち止まって深く考える姿の見える授業づくり ・「できるようになった」「わかるようになった」と、自分の成長を実感し、確かな学力をつけることのできる授業づくり 		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立蔵王小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期中期経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価	総合評価	改善方策
7	自ら考え学び授業づくりの推進	★	継続	教材研究の充実を図り、子どもの思考を深めるとともに、確かな学力を保障する学びの創造	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が学び合う中で教材研究を深め、多様な学びに挑戦する。 ・ことばにこだわった学びをつくり、ことばによって思考を表現する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修での学びを授業に活かせたと振り返る教職員が100% ・国語「読む」観点における学力調査で、全国平均を上回る児童が70%以上。 	□教職員研修での学びを授業に活かせたと振り返る教職員 100%。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して児童の学びを中心にすえた授業の在り方について研修し、多様な学びを工夫する。 ・ことばにこだわって思考を深め合い共有し合う学びをつくる。 ・特に学力調査40%未満の児童を中心に個々の課題を把握した取組を行い、学びの土台を作る。 	□教職員研修での学びを授業に活かせたと振り返る教職員 100%。	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、研修で学んだことを活かし、次年度へ引き継ぐ取組を行う。 ・児童個々の課題を把握し、次年度に向け復習や強化を行っていく。
4	自己有用感を育む居場所づくりの推進		継続	異年齢集団等での学び・活動をもとにした、あたたかなつながりの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢での学び・活動の中で、お互いを認め合う心情を育成する。 ・学び・活動の中で、お互いの考え、よさを認め合えるつながりをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵王小学校でともに学び合い、活動することが楽しいと自己評価する児童が90%以上。 ・自分や人のよさをいえる児童が90%以上。 	□行事・掃除・授業等で異学年での交流を行った。その中で、異年齢でのコミュニケーションを多く取り合うことができた。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・単元によっては、授業で異学年交流を行うことで、学びが深まるものもある。多様な場面で、異学年交流を行う時間を検討し、確保していく。 	□高学年の全ての児童が、異学年、異文化交流の中でともに学び合い、活動することが楽しいと自己評価した。	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流等を引き続き積極的に行う。その中で出た課題について、改善したり工夫したりしながら、あたたかなつながりをより深めていく。
1	保護者・地域に信頼され、持続可能な学校づくりの推進		新規	やりがいを実感し、働き続けられる職場づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各取組の目的、取組によって育てたい力を明確にする。 ・支え合う教職員のつながりをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもいろいろなチャレンジをすることが楽しいと感じる教職員が100%。 ・病気で休む教職員が0名。 	□チャレンジをすることが楽しいと感じる教職員 100%。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も様々な取組について教職員で共有し合い、子どもたちとともにチャレンジすることを継続する。 	□チャレンジをすることが楽しいと感じる教職員 100%。	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・支え合う教職員のつながりを大切にしながら、子どもたちと共に様々な取組にチャレンジする。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。